

助成年度：平成 28 年度

[所属] 京都大学大学院 情報学研究科

[役職] 助教

[氏名] Christian VINCENOT

[課題]

琉球諸島における伝統的農業と絶滅危惧種クビワオオコウモリの共存を目指して

[内容]

環境保護は現在における非常に重要な課題であり、自然の一部である人類の生存に繋がる安定した経済や食糧供給の維持も必要である。本研究の目的は、沖縄県におけるクビワオオコウモリ (Ryukyu Flying Fox, *Pteropus dasymallus*, Temminck 1825) の保護と本種による農作物の食害の防止を両立するための解決策を提供することである。

本種は、国内だけでなく国際的にもレッドリストにおいて絶滅危惧種として指定されている。また、琉球諸島において、授粉媒介者、種子拡散者として最も重要な役割を果たしている。本種は、デイゴ、アコウ、カジユマル、リュウキュウガキなど様々な樹木の生存や、その樹木に依存する動物相の生存に極めて重要である。しかしながら、本種は琉球諸島の森林奥地に生息し、夜行性かつ単独で行動することから、目撃することですら困難であり、目視観察などの通常の手法を用いた研究の実施も非常に困難である。

この問題を解決するため、センサーを通じて遠隔的に情報を取得可能なバイオロギング (Biologging / Radio Telemetry) と呼ばれる手法を用いる。15 g の GPS ロガーを使用し、石垣島でフィールドワークを行った。400g 以上重量がある比較的大型のヤエヤマオオコウモリ (*Pteropus dasymallus yayeyamae*、クビワオオコウモリの亜種) の 10 個体をかすみ網で捕獲して、各個体に記録計を装着した。本サンプルには、メス 6 匹とオス 4 匹が含まれていた。GPS 記録計を回収して、装着された個体の場所を特定した。現在、GPS データは分析中であるため、本報告では予備段階の結果の発表となる。また、行動範囲の調査に加えて、農作物の被害を把握するために、農業者にインタビューし畑で被害の調査も行った。